

「絆」と「連携」～日頃からのつながり～

災害時相互応援協定が成立！

11月3日、宮城県大崎市民会館において、約600人が出席して大崎市震災復興大会が開催されました。大会では、大崎市が策定した復興計画を市民に紹介するとともに、今回の震災で大崎市が支援を受けた当別町をはじめ全国8つ（愛媛県宇和島市、秋田県湯沢市、山形県遊佐町、山形県最上町、山形県尾花沢市、栃木県小山市、兵庫県豊岡市、当別町）の自治体と災害時の相互応援協定が結ばれました。

*当別町は大崎市、宇和島市との間で応援協定を結びました。

(写真) 大崎市役所

■迅速な協力を目指して

大崎市震災復興大会において、伊藤大崎市長からは、「今回の大震災では姉妹都市をはじめ全国の多くの自治体や企業からの支援や義援金により、震災直後の市民生活の確保と、早期復旧に向けて大きな力になった」との挨拶があり、予期せぬ災害に向け、いかに日頃からの準備やコミュニケーションと連携が大切であるかが確認されました。

広域に被害を受けた場合では、支援体制などを含めて、遠く離れた自治体との応援協定を結び連携することの重要性が明らかとなり、速やかな対応するための具体的な一歩が踏み出されたのです。

協定より、災害時は速やかに支援物資の輸送をはじめ、人的な支援措置が講じられます。また、普段からの情報の交換や、観光や教育を通しての人的交流などの結びつきが緊急時の円滑な対応に繋がります。

■応援協定の主な内容



▶生活必需品の提供

▶応援職員の派遣



▶情報の代理発信など

災害に強いまちづくりを進めるにあたり、当別町においても、家族や地域など人とのつながりや支えあいとおし、地域コミュニティから生まれる「絆」と「連携」を強化していきましょう。